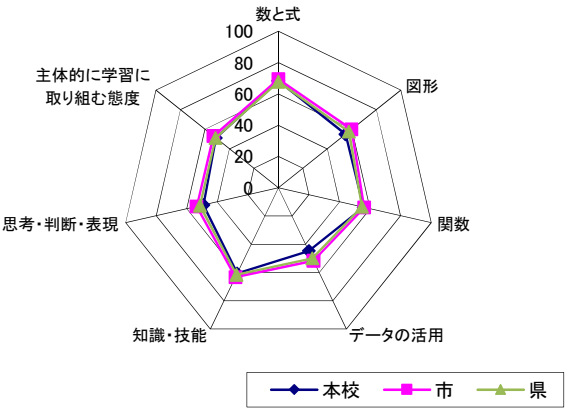


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.3	69.3	67.7
	図形	54.8	59.8	57.7
	関数	55.8	56.2	54.7
	データの活用	44.7	51.6	49.9
観点	知識・技能	60.5	63.2	61.5
	思考・判断・表現	49.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	51.1	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均より1.0p下回ったが、県の平均より0.6p上回った。 ○正、負の数の計算や与えられた文章題に対して適切な1元1次方程式を立式することは、よくできていた。 ●1次式の計算で、かっこのはずし方に課題が見られた。	・正、負の数の計算はできるが、文字式の計算を苦手と感じている生徒が多い。文字式の計算の仕組みを丁寧に説明し、繰り返し問題演習を行うことで、計算力が身につくよう指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より5.0p、県の平均より2.7p下回った。 ○角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図することや回転移動を用いて説明するについては、よくできていた。 ●円錐と円柱の体積の関係については、課題が見られた。	・立体の表面積や体積などの公式を暗記するのではなく、公式の成り立ちを理解することで、その意味を理解し、活用できるように指導していく。
関数	平均正答率は、市の平均より0.4p下回ったが、県の平均より1.1p上回った。 ○関数の理解や比例の式から比例のグラフをかくことについては、よくできていた。 ●比例の関係でのx、yの値の変化の関係について、課題が見られた。	・「yはxに比例する」や「yはxに反比例する」という言葉について、具体的な事象を示しながら、比例定数を負の数にしても成り立つことを、丁寧に指導していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より6.9p、県の平均より5.2p下回った。 ○データを比べるときに、相対度数を用いる理由を理解できている。 ●示された考えが正しいことを、度数折れ線の特徴を比較して説明することについて、課題が見られる。	・相対度数など基礎的な用語の意味は理解できているが、説明の問題では無解答の生徒が多かった。授業で、数学用語を使って条件に合うように書いたり、人に説明したりする時間を適宜取り入れることで、苦手意識をなくすように指導していく。